

# 隊員報告書

第 号 ( 3 0 カ月目 )

平成 8 年 1 0 月 4 日提出

ヨルダン国派遣 平成 5 年 3 次隊 職種 電子機器 ( 8 年 4 月 / 8 年 1 0 月分 )

インドゥヒロ  
氏名 遠藤浩史

配属先・住所 National Electric Power Company ( 電力会社 )  
Head Quarter, 7th Circle, Zaharan Street

## 配属先の名称

配属先はこの 9 月 1 日より民営化され、 "電力庁(Jordan Electricity Authority = JEA)" から "電力会社(National Electric Power Company = NEPCo)" に名称が変わった。



## 業 務 内 容

### (A)延長後の活動

#### a)延長に伴う業務計画の進捗状況

##### コントロールセンタ

先の隊員報告書第 号の提出後、休暇一時帰国を取り日本に帰った。その後任国に帰国直後に以前の勤務先であるコントロールセンタより、コンピュータが破損した報告と修理の依頼を受けた。この機は、先の報告書にも記した "支援経費にて導入したにもかかわらず、隊員である自分に対して利用に制限を設け、活動に支障を来たす一因になった" 例の代物である。尚、この故障は以前現地事務所宛てに提出した依頼書 "REP0144.TXT" にある物とは別の、新たな故障である。

## 電算情報課

この部署では "社内で使用している機器の修理" と "コンピュータを利用した業務の円滑化効率化のための作業の実施計画" を行っている。

"...修理" においては、現在は特定の I C の故障を発見するためのテストを作製し

ている。汎用のものではないが、これを元に汎用の物を彼らが自ら設計してくれれば...と考えている。また、これを通じてより一歩踏み込んだ知識を持ってくれればよいと考えている。日本と違い 'パソコン = IBM\_PC/AT 互換機' と言った短絡的な思考が支配しており自由な発想を妨げている様に考えらる。自身で設計出来る様に成れとは言わないが、回路図から多角的に機器を読み取れるようにはなっていない。

専門的に言えば、例えば殆どのフロッピーディスクコントローラは1つのコントローラで4台のフロッピーディスクドライブが接続出来る様になっているが、通常は2台のみ接続されているので、残りの2台の部分が利用されていると、"全くおかしな接続である" 等と考えてしまうのは既存の概念に捕らわれてしまっている好い(悪い?)例であろう。

この様な考えは、知識は充分にあるにも関わらず経験が足ら無いために陥る場合が多い。自分の知りうる限りを教えて、彼らのデザイン面での経験の不足を補う方向での業務に、多くの力を注いでいる。

"コンピュータを利用..." においては、職場では現在 'PROXY-SERVER によるインターネットとの接続' を考えており、そのための技術の探求を行っている。

任国では、研究開発(と言えるかどうか?)は企業よりも大学の様な研究機関が主導権を持っており、配属先の職員はその様な機関の研究会等に出席して、それらの知識を得、個人の能力の専門性を高めているのだが、これら研究会等のレベルは余り高く無く、良くて "本に書いてある事をそのまま..." と言った程度である。

何故その様な程度で研究会になり得るのか不思議だが、実際は彼ら(任国の人間達)が本を読まないからに他なら無いのだろう。自分の様なボランティアを必要とする所以もここにある。自ら本を読まずに、他人に手取り足取り教えてもらわなければ自らは知ろうとしないのである。努力することが苦手なアラブ人らしい理由であると思う。しかもその様な本は意外と簡単に任国国内で入手出来るのだから全く不思議だ。

余り自分の様な国際協力の専門家でも無い者が、書くべき事では無いのかも知れないが、この国での専門家や技術系のボランティアの要請の殆どが、"生き字引の必要性" から出ている様な気がする。例えばある機器を扱っている時に利用方法に疑問が生じたとする。するとマニュアルを読まずに、それを知っている人間に教えてもらう、または代りに操作してもらう。彼等には、この様な生き字引が必要なのである。なんだか馬鹿げている話のだが、彼らは大真面目に本に書いてあることを暗記している人間が立派であると信じているし、考えて行動する必要を感じていない。また、コツコツと調べ物をして解決方法を見出す人間を無能であると感じている。従って我々がカットアンドトライで物を摘めてゆく様子は余り良い様には見えない様だ。

要するに自分達が楽をするため、働かないですむために外国人の無償労働力が必要なのだ。

前述の 'PROXY-SERVER' によるインターネットとの接続' もソフトウェアの取り扱い説明書や、多くある専門書等を書いてある。これについて技術的な助言も行ったが、運用後に生じる問題の殆どが技術的な問題では無く、利用者のモラルによる物である事が容易に予想出来るので、余り積極的に協力する気になれないのが現状である。

## b)業務上の問題点について

### コントロールセンタ

今までに提出した隊員報告書をはじめ、以前から事ある度に自分が指摘している通り、配属先(特に以前勤務していたコントロールセンタ)は技術的な問題よりも道徳的な問題が多く、業務の改善を妨げている原因の多くは技術が不足しているからでも資金が不足しているからでも無い。人間の道徳的な資質の問題であると考えている。前述したコンピュータの故障の原因も明らかに人的要因である。

具体的なこの機の故障の症状は固定ディスクの不具合であるが、その故障の状況から考えて、ヘッドのアクセス中に物理的な衝撃を与えたか、電源の ON/OFF を繰り返したか...と言った人的要因からなる不具合である。製造者側の問題による故障では明らかに無い。

更に自分を呆れさせるのは、この壊れた機器を修理もせずに半年間放ってある事である。パーソナルコンピュータは生物(なまもの)だ、古くなれば使えなくなる。僅か3年前の普及機では現在主流のOSが使えない。使わずに半年以上放置することは、将来の粗大ゴミを温存しているにしか過ぎない。この職場には "IBM\_PS2" があり、現在ではほぼ実用出来ずにいるので、この点は痛い程骨身に解っていると思うのだが...? しかも修理の費用は配属先のテクニシヤンの月給の僅か 1/3 程度のもので、企業レベルでは決して高価であったりはしない。

そもそも、自分達の身銭を切った資産では無いからこの様な事態になるのだろうか? この辺りは全く理解出来ない。

この機は自分が隊員支援経費にて導入したものである。この様な状況は、配属先の機材に対する維持管理能力が無いと判断せざるを得ない。導入直後より隊員である自分に利用の制限を設けた上に、日々の使い方にも問題があり、更にはこの様な状況に至ったからには、本機材はこれ以上コントロールセンタに置いておく必要を認めない。

これも先の報告書にて報告済みだが、現在、配属先本社にて活動中であり、この

活動において、本機材があれば活動の自由度が大きくなるのは必須である。今年2月にこれらの機材の所有権について、私自身と配属先のコントロールセンタ内では事態処理が手に負えない状況に陥った為に、配属先管理部門及び JICA 事務所の双方に書類によってこの点の改善を求めた。しかし現在まで全く対応されてない。黙殺されている状況である。特に、現地事務所より調整員が配属先に私の留守中に訪問した際に、この問題に全く触れなかった点は納得出来ない。隊員報告書にこれらの点を明記することを以って、JICA 事務所も至急何らかの対応して頂ける様に改めて要請したい。

ここで行っていたネットワーク作業は上記理由により、全く活動が出来なくなってしまう。

#### 電算情報課

こちらの部門に移ってからおよそ半年になるが、この半年の間に本部門を眺めていて感ずる問題は、作業場所が無いことである。

扱っているものがパーソナルコンピュータといった比較的小型なものであるので事務机の上で十分に作業が行えてしまうせいか、きちんとした作業機が無く、また、これといった専用の道具も必要とせず作業が出来てしまう為に、整った作業場所が無い。そこそこの作業は問題が無いが、より良い作業環境を考えるとあった方が良い。

この部署の長でありカウンタパートの一人であるイマドさん(写真右から2人目)は非常に優秀であり、この部署での多くの問題を解決するに十分な能力を持ち合わせている。



#### c)その他

先の隊員報告書第 号に記した盲学校における活動を、配属先の協力を得て現在も行っている。詳細は別添に記す。

## (B)専門業務以外の活動

先の隊員報告書第 号に記した通り、人形劇の活動はもはや隊員だけで行っていく事は不可能だろう。いずれ近いうちに自然消滅してしまうのでは無いか？と感ずる。

人形劇の公演以外にも、定期的な予防注射や、安全に対する委員会、隊員機関紙の製作など、かなり中心になって行っているのだが、正直なところはこれらは心理的な負担が多く実に "嫌(いや)" なのである。しかし、この様な活動を自分が止めてしまうと、そのまま'尻窄み'になってしまい、'無くなって行く事'を黙認することは、それ以上に苦痛であるので続けているワケだ。何故、他の隊員達はこのような状況を黙認出来るのか理解に苦しむ。他人が一生懸命に作って来て、今日まで続けて来た物をいともあっさり捨ててしまう事の出来る人たちの心理状況が自分には理解出来ない。

安全に対する委員会も、交通事故で隊員の一人が亡くなっており、また東京の協力隊事務局から指導に來られた折りにも設置の依頼があったにもかかわらず、隊員の殆どが "その様な物が存在する必要性が無い。" と言った意見を持っているのは理解に苦しむ。

また、ドミトリの運営委員に自ら立候補する人間が一人も居なくなってしまったことは異常な事態と言わざるを得ない。こんな事を言う自分も何だが、最近の隊員の気持ちが解らない。非常に斜に構えており、纏まった形での活動に否定的である。

## 支援体制

### a)プロジェクトの自立性

現在行っている活動は、技術的な啓蒙活動と、アドバイザー的な役割を持つ相談役の様な立場なので、自分が居ないと困る、と言う事は無い。しかし、自分が与える助言や業務遂行のためのヒントは、配属先の職員達だけではなかなか思い付かない様だ。

これらの考えが自主的に見出せるかどうかは、個人の資質によるところが大きいのではないかと思う。

どの場合も、結局はヨルダン人が "マーレッシュ(気にするな)","ムッシュ ムシュケレ(問題無い)","ハラス(終り)" と言い続ける限り、ヨルダンは良くならないし、彼らは自立しない。そして自分の見ている限りでは、彼らは自立することは望んでいない。

### b)今後必要と思われるもの

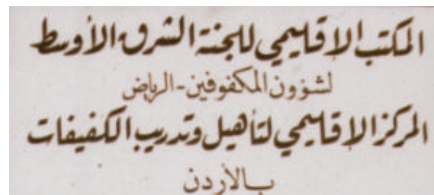
前述した通り、業務遂行に置いて作業場所が狭いのでこれを改善する必要があるが、これを行うと彼ら自身が現在使用している道具では満足では無いことが気がつくのでは無いだろうか？と思う。

実際には、測定器や治具の類が無いので、これらが必要になるだろう。また、工具一つにしても充分満足のいったものではないし、スパナやレンチと言った道具はほとんど無く、ボルト類はペンチやプライヤで回している。

また、業務の円滑化効率化が進めば、様々な開発用のソフトウェア,ハードウェアも必要になってくるであろう。事実、コントロールセンタでは回路図エディタによる設計のためにCADが必要になって来ているし、電算情報課ではPROXY-SERVERの様なソフトウェアが必要になってきている。またOSの肥大化に伴いメモリの不足や電話回線によるInterNet等の接続のために高速なモデムが必要になっている。いずれ支援経費等にて機材援助の要請をすることになるだろう。

## 別添

現在、S Eの隊員の要請が出ている盲学校での活動を、配属先の協力を得て行っている。



ここは "視聴覚障害者職業訓練センター" でサウジアラビアに本部がある NGO 団  
体で、全寮制の女性ばかりの施設である。10名程の職員が約40人程度の生徒(1  
5から35才)に、編み物や手工芸等を教えている。



ここに、本年3月に国連の援助によるコンピュータの点字表示装置が設置された。  
これによってコンピュータを通じて点字の入力と表示が可能になったが、同センタ  
ーにはコンピュータに関する知識があるものは皆無であり、実用は難しい。そこで  
これらの機器を扱える様にし、情報の入力と点字機器による出力によって盲目の障  
壁を取り払い、更には電子化された情報によるライブラリの作製や点字図書館の様  
なものも製作することが目的である。

導入された機器は写真にあるように全く普通の IBM-PC/AT 互換機に点字の表示  
装置を付けたもので、この装置は RS232C を介して本体と接続されている。点字の  
表示部分は静電式のアクチュエータが並んだものでそれらを機器に組み込まれたマ  
イコンで制御している。本体からは MS-DOS のデバイスドライバで組み込んだソフ  
トウェアを介して画面のデータ(VGA の表示データ)を転送するようになっている。

したがって点字表示装置の側では画面に表示されている任意部分の文字を表示することが出来る。



点字部分の拡大写真を添付する。この写真中右側の4つつ点字がVGA画面の行と列を示してあり、残りが画面中の40字を示している。通常、VGAの画面は80x25文字なので一列を40字づつ区切って2回分け表示する。



このソフトは非常によく出来たソフトで、あらゆる状況を想定してほとんどがカスタマイズ出来る様になっている。従ってユーザは使い易い様に自在にプログラムすることが出来、ラテン文字を使う言葉は勿論のことヘブライ語、アラビア語、ペルシャ語など拡張ASCIIの文字コードで現せる文字であれば何語でもかまわない。(日本語の様に漢字の読み方に何通りもある様な言語はこの限りではない。従って韓国語の様に漢字の読みが一通りの言葉ならば全く問題が無くそのまま用いられるのではないか?) 優れたもののソフトとって良いと思う。このソフトは本来点字装置と組み合わせて使うべきもので、単体で(装置が無しで)利用出来るべき物では無いのだが、何故かパラレルポートにセンチネルによるキーデバイスが付いており、単体では利用出来ない様になっている。

現在、国連の援助によって現地の代理店の方が週に3日、1日2時間程度の指導に来る契約になっており、これによって2人の生徒は以前に比べて非常に高いレベルまで使いこなすことが出来る様になった、しかし全く1人で機器の立ち上げから、

文書の呼び出しまで出来るわけではない。今後も継続して指導を行う必要がある。

彼女等が体得した技術は、具体的に簡単なDOSのコマンドと階層構造の理解と階層間の移動やサブディレクトリの作製や削除と言ったこと、エディタやワープロを用いて文書の読み書きが出来る様になったこと、等である。

自分も英語のタイプ入力やDOSコマンドと言ったレベルの技術指導を及び機器のメンテナンスを行っているが、すでに前述の2人の生徒は、ほとんどこれらをマスターして、現在はアラビア語の読み書きを行っている。したがって自分の手を



ダイレクタのハラさん

離れたと考えている。今後この2人にはアラビア語の堪能な人間でなければ指導する意味が無いので、要請の条件として語学が堪能である必要があるだろう。特にアラビア語は書き言葉が話し言葉と全く違っているのが難しいが、この障壁を乗り越えられる能力とバイタリティあふれる人材が必要だ。

勿論、2人の生徒以外は、ほぼ機械に触ることすら出来ない状況であるので、いづれにしてもこれらの2人の生徒と協力し教えてゆくことになり、十分な活躍の場がある。